

# 飛んだお客様

如柳子

○今年六十日の暑中休暇には、僕は一度も外出の出来ぬほどに、飛んだお客様に舞ひ込まれた、人は富士登山の避暑旅行の浮かれて居る最中に、只の一度も外へ出られぬ程の厄介なおお客様に見舞はれたのは、近年稀な暑氣と同じ様に十年以來、否生て以來こんな難儀な暑中休暇は始めてある。

○さて其のお客様は海の者でも山の者でもない、人間世界、殊に子供の世界に恐るべきお客様なのであるから、結局本誌の餘白で、諸君にお紹介をすることにしたのである。さて、飛んだお客様とは一體誰方であるか。早速白状すれば實は百日咳といふお客様である。

○何事も自分で経験しなければ本統のことは分らぬもので、ヤレ「輕かつた」の、ヤレ「重かつた」の「苦しかつた」「辛かつた」と聞いても、聞いた丈けでは、如何も眞想が得られない。随つて同情も起り難い、否場合によつては「ハア左様ですか

と聞き流したこともあつた。

六

○さて迂濶には出来ぬもの、昨日は人の身、今日は我が身。百日咳の好きな三歳から五歳の子供は勿論七歳九歳といふ、お規則通りの、然も男兒がゾロリと首を揃へて待つて居るのだから溜らない。御免とも何とも言はず這入て來たのである。

○併し全然出抜けといふ譯ではない。實は僕の家は隣が畫工で、向ひは琴の師匠、習字の先生と、此の四軒が一劃をなして居る高尚で閑靜なところで、俗人は僕の家のみであるが、百日咳も俗人は嫌いに見えて、先づ第一に畫工の息子の十歳になるのと、六歳、八歳の女兒とを苦しめたのである。

中であらう、六歳の女兒が苦しかつた様であるが、百日咳は次に琴の師匠の家に舞ひ込み、三歳の男兒、五歳の女兒二人を生捕り、比較的三歳の男兒が難儀をした。三回目には習字先生の所へやつて來て、これ又三歳と六歳の女兒を倒した。但し此處には十歳以上の女兒二人居るのだが、百日咳先生是には手を出さぬ。よい案排に僕の家のみは天幸で杯と澄まして居つたが、魚鱗櫛比の都の家

屋、終に延焼して、最初に取り付かれたのが四男で五歳になるのである、時は六月中旬のことであつた。○サア斯様なつては父母たるもの、周障狼狽はない。といふのは元來迂濶に聞いた知識は何にもならないで、日に増し子供のせつなさ、僕等のせつなさが増して来るからで、子故に迷ふ親の闇、只一刻も早くお客様を逐ひ出す算段にばかり苦心するが、さて中々落付はらつて容易に腰をあげない、百日咳は實に執拗なものである。○取り付かれた順序は五歳から九歳、七歳、三歳といふので六月中旬から九月中旬まで正さに九十餘日、百日咳の名は誠に欺かない。併し時候により、年齢により、體質により、病質により軽重長短の差は免れない。僕の家では五歳が最も重體で肺炎の淵に瀕し、時期も勿論長い、次が三歳の一番遅くお見舞を受けたのが、殿軍として今でも時々ゲホ〜苦んで居るのである。七歳のが一番軽く、一週間ばかりは苦しんだやうであるが其の他は平生と變りはなかつた。○重いといふのは、熱の急劇な昇降、烈しき頭痛、

多量なる鼻血の出るなど、五歳の子は皆之を経験した。そして咳の爲めに飲食物など吐き、顔面膨れて平生の顔に見えないのは、四人ながら同一轍である。それから咳の烈しいのは一時間に三四回、一回の長さは十分間位に達するものもあるが、僕の子供は度数は一時間二回、一回三分間位が烈しい極度であつた。○前後九十日此等の小兒の苦しみを滅せしめやうと苦心した結果は、百日咳に就て少なからず知識を得たのであるが、廣い世界には僕等より經驗の積んだ方もあらふから、僕の白狀に次で、是非本誌に紹介して貰ひたいものである。○百日咳といふお客様の滞在中おかしと思ふことがあつた、それは古來の迷信である。迷信も場合によつては馬鹿に出来ぬと思つたので、又親切に致へて呉れるものを笑ひ流す譯にも行かぬので耳に止まつたのは次の二種である。○ニンニクは葱に似た、臭い野菜である。支那人臺灣人などは常食にするものが多いが、我々は勿論食物にはしない、ニンニクを甘露煮にして食べ

させるは百日咳を治するに効驗があるといふので、早速八百屋に頼んで捜して貰ふて甘露煮を拵へた。中にはニンニクの薰りがよいとて古來軒に吊るしたものだからといふものもあるもので、一部分は南の椽側に吊つたのが、今にも残つて居る。さて甘露煮の法はといふと、先づ僕が試みに一ト箸口にしてから子供に食べさせたのであるが、僕已に一ト箸でギャフンとまいつたので、これではと危ふんだが、いやな顔を見せず、勸めて食べさせやうとした。ところが其の形を見たばかりで、子供は一ト箸も口にしない、九歳のが物好きに一ト箸舐めたが忽ち鼻を摘んで仕舞つた、冷えたら如何かと思つて冷やして、勸めた、矢張り見向きもしない。壓制して押し込むのも可愛相であるから、終に其の儘、一週間も経つてから、植木の肥糞をやつて仕舞つた。

○次のは聞いたばかりで實行はしない。それは大弓場の矢の黒羽を黒焼にして飲むといふことである。これ百日咳が治するものであらば、それ程得難い薬ではないが、さてこれはさうも感じられ

ないで、失敬ながら聞き流しになつた。

○兎に角百日咳は生命には關係しないが、非常に長いといふことは、隣に患者の生じた場合に耳にしたところである。日に二十錢づゝ薬を飲ましたところ、百日といへば二十圓かゝる、四人の患者があれば八十圓はかゝる。そこで露骨にいへば、僕には八十圓の薬價が拂へぬ境遇であるから、サア患者が出来た直ぐにお醫者とは思ひ付かぬ。その罰か如何かは知らぬが、五歳の子供が約一ヶ月も過ぎて、咳も餘程少なくなつた時分、二三日烈しい頭痛が起つて、或日の午後俄に、體熱下降して、冷血となり全身蒼白色に變じ、

○呼吸促迫意識朦朧、將に絶息せんとするのやうになつた刹那、八十圓が百圓でも到底醫者の手を取らさずに居られなくなつて、周障て、醫者に來て貰ふ境遇となつたのである。醫者は肺炎に變せんとす、明日は病院に入れるべしとのことで、恐惶更に恐慌一日二十錢が二圓となれば百日二百圓四人とすれば八百圓を要することゝなる、ナント百日咳も馬鹿に出来ぬではないか、コンナお客様

には實に閉口である。

○ところが其の夜徹夜の看眼、頭は水、胸はアル  
コホルの濕布といふ手敷を厭はぬ誠心を天も感應  
されたものか、翌日は案外軽快、醫者もこれな  
れば、入院を控へたがよからうとのこと、ヤン嬉  
しやと、一胸撫で下したが、さて薬は御免ともい  
へぬ、五歳のに薬は三通りも頂戴となれば、傳染  
した、九歳も、七歳も、將た三歳もといふ順序で  
とうとう四人共醫者のお厄介、主人公たる僕は寧  
ろ泣きたくなる。

○それなれば醫者にかけるまでは薬は與へぬかと  
いふに、随分検査に検査を重ねてベルツシンとい  
ふ咳一切の外國薬を尋ねて、それを與へたのであ  
る。此の薬は醫者も知らぬといふた、實は知つて  
居るのかも知れぬが賣薬と同じものを與へたと  
はれぬ爲めの豫防と見えてか、知らぬといふ、兎  
に角知らぬとして、ことのそれ程、滅多にない、  
東京にたつた一軒、麴町紀尾井町の齋藤といふ薬  
舗にあるばかり、一々電車で買ひに行く、仕舞に  
は薬屋の番頭さんと懇意になつて、伴れて往つた

子供に土産を呉れる様になつた。それも其の筈此  
の薬は一瓶一圓四十五錢（一合二三勺入）といふ  
高價の薬を五六遍も買ひに往つたのである、上等  
のお客様なのであるからであると思ふ。

○ベルツシンはベルツシンと間違はぬやうにせね  
ばならぬ。ベルツシンは咳一切の藥就中百日咳  
に特效といふので、一日の極量、七八匙、甘味芳  
香、子供には寧ろ好まれる藥である。如何も蜂蜜  
が臺らしい。併しこれも或る場合には子供が嫌が  
ることがある。その時はなんでも直ちに吐いて仕  
舞ふので、此の時は一時は薬の中止時代とでもい  
ふのであらふ。用ゐた經驗で咳には確かに有効で  
あるが、百日咳に對しては妙々しいとは感じられ  
ぬ、幾分かづ、輕減するには違ひないといふだけ  
である。

○醫者のいふのに、百日咳には薬はない、薬を與  
へて置きながら薬はないといふ。多分除熱薬や消  
化薬でも當て、置くのであらふ。素人の考では注  
射のやうなことをして一時でも苦痛を止めたとい  
思ふが、藥同然療法もないとのことである。只肺

炎、氣管支カタル等の豫防に喉頭、胸部等に濕布（アルコホル最も好し）を捲き、吸入器を用ふ等のことは至極よいことである。これは實驗したところ確かであるが、吸入は、七歳、五歳までは如何にか届くが、三歳のはテナデ吸入器の側へも寄らぬ、分らぬから仕方がない。故に寢て居るときに工夫して吸入する様に仕掛けるが寢て居ては餘り効果がないといふことである。

○右の通り療法も藥もない、百日咳に限り如何して醫者は冷淡なのかしら、外國のは輕いのかしらなど、種々の疑が起つて、これを醫者に質した。醫者のいふには、外國とても百日咳が輕いといふ譯ではない。只其の病質が直接生命に關係がないから研究が届かない。又傳染性、不傳染性、微菌性、非微菌性等一向決まらぬのである。要するに輕重はあるが、麻疹、痘瘡等のやうに一定の経過時期のあるものであるから、其の間だけ持重して居るより外はないといふことになる。

○然らば其の持重するにはといふに、第一に營養の衰へぬやうにすること。即ち滋養になつて消化

のよいものを與へること。劇しく吐く時代には、流動物の方を用ゐること。腦に影響して鼻血の度々出る場合には頭を氷で冷やすこと。喉頭や胸に濕布を施すこと。室内を六十度以下の温度に降らぬやうすること。夏にても、決して理髮入浴等させぬこと。汗、垢等は局部を拭きつゝ取ること。肝癢を起させぬ様すること。間食には水飴、飴類を用ゐること等である。

○何病も快復の近くなつて油斷の出來ぬもので、殊に百日咳は後戻りし易い場合が多いから十分注意せねばならぬ。五歳の子供の長かつたのは確かに快復の近くに全身浴をせしめたからである。この點からいふと、殆ど寒胃患者と同様に心得ねばならぬ。

○さてそれから百日咳を煩つた影響であるが、或る人は健康になるといひ、或る人は弱くなる、殊に腦が悪くなるといふ。那方かといへば後者の説が多いやうである。今日のところ、僕の子供は腦の悪くなつたといふ徴候は確かに見える。それから一寸したことに咳をする、風邪などは、容

易く胃いされるやうに感かんじられてならぬ。併しかしこれから先まきでなくては確たしかなことはいはれぬ。それから再また患あやまつと一回いちど説せつである。一回いちど百日咳ひゃくじつせきに胃いされたものは再び胃いされないと、恰あも天然痘てんぜんとうと同じやうにいふ人もあるし、再度またも三度さんども胃いされ易やすいといふ説せつもある。この経験けいけんもこれから先まきのことである。

○普通ふつうに輕重けいちゆうの度は年長者ねんちやうしやが輕かろい。男女だんぢゆうでは女兒ぢゆうじが輕かろいやうに思おもはれる。極たぎく輕かろきは一週間位いちしゅうかんぐわい、百日咳ひゃくじつせきであつたか位ぐわいもある。何なにしろ僕ぼくのところの日は五歳ごさいのが重おもくて、七八十日過ぎた今日こんにち切きりに音おん梁りやうの食物じきよくを欲ほつする傾向けいかうが見みえる。確たしかに健康けんかうの快復くわいふく期きになつたのである。三歳さんさいのは今いまに朝夕てうせき、一二回いちにじつ、劇げつしく咳せきく、この方は發病後はつびんご四週間ししゅうかんである。

○百日咳ひゃくじつせきの看病かんびんは他人たにんにさせると云いふ俚言りげんも初耳はつみみである。蓋けだし實じつの父母ふぼは子供こどもが苦くるしく殘酷ざんこくの有様ありさまを堪たえ見みることが出來ぬためであらふ。以もつて如何いかんに困難くわんなんな、厄介やくがいな、厭やくふべき病氣びやうきであるか、推量すいりやうかられる。

○僕は右みぎの持重法ぢぢゆうほふの中うちにある肝癪かんしゃくを起おこして劇げつしく

咳せきの出でぬやうにとの條件てうけんに應おこずる爲ためめに、三歳さんさいの子供こどもの一番氣いちばんきに入いつた電車でんしゃ乗りのりを、殆ほとんど三十日さんじゅうにち休やすみなしに行いつたのである。傳染でんせんするといふからに、他人たにんの子供こどもの家うちに来くることも禁まするが、勿論もちろん此方こゝから行いく譯わけにも行いかぬ。それで電車でんしゃに乗のつて何處どこへ行いくかといふに、殆ほとんど行いくところがない。外濠そとほりを一週いちしゅうして何處どこで降おりるのですかと怪あやまれ、千住せんじゆうに向むかつては名倉なぐらでも往いくのですかと疑うたはれ、八九十度はちじゅうとの炎天えんてんに電車でんしゃ納涼なつらうも洒落しやれてると冷ひややかす友ともがあれど、心配しんぱいな病兒びやうじをかへて、納涼なつらうどころか、何時いつも歸かへりは汗あせビツシヨリ、反對はんたいに冷ひややかになるは懷中くわいぢゆうばかり、さて今年ことしは飛とんだ、お客きやく様に舞まひ込こまれて、餘計よけいな知識ちしきを得えたことがあるよ。(完)

### 德育に就て

樂 天 子

教育けういくは智育ちいく德育とくいく體育たいいくの三つが全まふして、その効果かうかうを擧あげ完全かんぜんの人ひとになるのであるが、智育ちいくは段々だんだんに進すすむが、德育とくいくと體育たいいくは段々だんだんに衰おとろへる、志こころざしある人は